

2012年(平成24)11月

カルメル 霊性センターニュース



審判者キリスト 1250 ノルウェー・トルゴ牧杖教会

2012年11月

281号

目次

特集

教皇メッセージ “輝く星”	1
心の泉	3
カルメル会の企画案内	21
諸所の企画案内	35
年間購読(郵送)のご案内	46
編集後記	47

特 集

教皇メッセージ “輝く星”

次のメッセージは、スペインのアビラのサン・ホセ修道院創立と、イエスの聖テレジアによるカルメル会改革の開始、450周年にあたって、教皇ベネディクト十六世が、アビラ教区のヘス・ガルシア・ブリーリヨ司教に送られたものです。

※ 霊性センターニュース10月号～11月号に連載しています。

(前号からの続き)

4. 十六世紀と同様、現代も、急激な変化の中にあって、信頼を持って祈ることは、使徒職の魂でなくてはなりません。イエス・キリストの贖いのメッセージが、はっきりとした、力強いダイナミズムをもって鳴り響くために。いのちの言葉が、人々の心に、大きく、魅力的な音色で、調子よく響くことは、差し迫った必要事です。アビラのテレジアの模範は、この心を掻き立てるような仕事において、私たちにとって大きな助けとなります。あの時代、聖女は、飾り気のない言葉で、倦む事のない熱心さをもって、惰性に陥ることなく、輝くような言い回しをもって福音宣教をしたと言えましよう。今述べたこれらのことは、現代の岐路にあっても全く新鮮さを保っているのです。それは、洗礼を受けた人々が、アビラの神秘家の言に従って、神のご光栄を見出す唯一の道は、キリストの聖なるご人性の観想に中心に置く個人的な祈りを通して、自分たちの心の刷新をしなければならないという差し迫った必要性を私たちに気付かせます。(「自叙伝」22・1, 「靈魂の城」6・7 参照) こうして、キリストの福音のうちに自分たちの心の火を発見する本当の家庭(共同体)を形づくることができるでしょう。それは、生き生きと一致した共同体で、隅の親石であるキリストの上にしかりと土台を置き、また、寛大で、兄弟的な奉仕の生活を渴望するキリスト教的共同体でもあります。そして、絶え間ない祈りが、活動と観想の両次元において一つになっている奉獻生活の美しさを力説しつつ、まず何よりも召命を促進しますように。奉獻生活は、教会の宝、恵みの流露であることを付け加えねばなりません。

キリストの力も同様に、神の民が唯一可能な仕方でも力を回復するようイニシアティブをさらに強化します。私たちの心の内に、主イエスの思い(フィヒリピ2・5)のための場所を作ることによって、また、あらゆる状況において、福音の根本的な体験を探し求めることによって。これは、何よりも、私たちが師イエスの友とさせ、彼と一つになることを聖霊に委ねることをも意味します。そして、全てにおいて主のご命令を受け入れ、行動における謙遜さ、不必要なものの放棄のような特徴を身につけ、他人を怒らせず、単純さと柔和な心をもって振舞うことをも意味します。そうすれば、私たちの周りにいる人々は、私たちが、主にしっかりついていることから生じる喜び

を感知するでしょう。そして、私たちが抱いている希望について、私たちがいつでも弁明できるように備えていることから、また、イエスのテレジアのように、私たちの母である教会への、子としての従順のうちに生きていることから、私たちが何ごとにも主の愛に優先させることがないことを認めるでしょう。

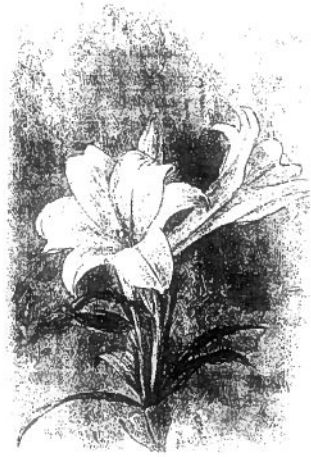
5. 今日、アビラ教区のこの傑出した娘は、この徹底性と、忠実性へと私たちを招きます。歴史のこの時点で、彼女の美しい遺産を受け取りながら、教皇は、特にこの教区のすべての信者に呼びかけますが、殊に、若者たちに呼びかけます。聖性への普遍的な召命を真面目に考えるようにと。イエスのテレジアの足跡をたどりながら、未来を生きてゆく者たちに言わせてください。どうか、あなたがたも、完全にイエスのものになること、ただひたすらイエスのみのものになること、常にイエスのものであることを熱望してください。彼女が言ったように“私はあなたのもの、あなたのために生まれました。私に何を望まれますか。”(詩 2)とすることを恐れなくてください。そして、私は、あなたがたが、神の恵みに照らされて、神の栄光のために全てを放棄する人々を、神は決して見捨てられないということを信じつつ、あなたがたのうちにある“わずかなもの”を捧げるため、「きっぱりとした決心」をもって、神からの呼びかけに応えることができるように祈ります。(「完徳の道」21・2； 1・2 参照)

6. 聖テレジアは、カルメルの聖母という甘美な名で呼ばれる聖なるおとめマリアを、深い信心をもって崇めることを知っていました。アビラの教会が、聖霊によって若返らせられて、情熱と勇気をもって福音を告げ知らせるためのふさわしい方法を見出しますよう、その母のご保護にこの教会の使徒的奮発心を委ねます。 テレジアの改革をもって、主が全世界に灯したあの“星”を、教会が、すべての人々に、キリストの愛と真理の偉大な光をもって輝かせ続けますよう、“福音宣教の星”であるマリアと、そのの浄配、聖ヨセフの執り成しを祈ります。

尊敬申し上げる兄弟なる司教様、このような願いを込めて、あなたにこの手紙を送ります。そして、あなたの司牧的配慮に委ねられたあなたの教区民、特にアビラのサン・ホセ修道院の愛する跣足カルメル会修道女たちに、創立者の精神を今の時代にも永續させるよう伝えてください。そして、ペトロの後継者のために熱心に祈ってくださることに対し、いつも感謝していることも伝えてください。彼女たちに、また、あなたとアビラのすべての信徒に天的な豊かな恵みの保証として、愛を込めて使徒的祝福を送ります。

7月16日、ヴァチカンにて、
教皇ベネディクト十六世
(山口カルメル会 訳)

心の泉



DE IMITATIONE CHRISTI
キリストにならう バルバロ訳



第一巻

第二十四章 罪人の審判と罰

3 罪の罰 (2)

どんな悪にも、それぞれの罰がある。そこにおいて、傲慢な人々は、恥辱におおわれ、貪欲な人々は、みじめな赤貧におとされるであろう。そこにおいては、苦しみの一瞬は、この世での辛い苦行の百年よりも苦しいことであろう。そこにおいては、滅びた人々のために一刻の休みも慰めもないであろう。この世では、ときどき苦勞を憩わせ、友人の慰めを受けることもあるのであるが…。だから審判の日、聖人たちと共に、安全にいることができるように、今、あなたの罪を省み、それを痛悔しなさい。

「その時、正しい人は、自分たちを苦しめた人々、迫害した人々の目の前に、毅然として立つ」(知恵5・1)。その時、この世で人間の裁きに謙虚に従った人が、ほかの人を裁きに立つであろう。その時、貧しい人と謙虚な人とは、大いなる心の平和を得て、傲慢な人はどちらを向いても恐怖におののくであろう。

4 義人たちの喜び

その時、キリストのためにおろか者と軽蔑された人が、この世で知恵のある者であったと知るであろう。その時、忍耐をもって甘受したすべての患難は、喜びのもととなるであろう。「悪をおこなった口は、すべて閉じられる」(詩編107・12)。その時、敬虔であったすべての人は喜び、信仰に反した人は嘆き悲しむであろう。その時、苦行をおこなった人は、つねに楽しく暮らした人よりも、喜びにあふれるであろう。

その時、粗末な服は輝き、ぜいたくな服は黒く濁るであろう。その時、貧しい住居は壮麗な邸宅よりも称賛されるであろう。その時、世界の全権を手に握ることよりも、絶えざる忍耐のほうが、役立つであろう。その時、世間のあらゆる狡知よりも、単純な従順のほうがはるかに称賛されるであろう。

信仰年に

神と親しく生きるために — 11 —

猛暑に居座られた日本列島の長い夏もやっと終わり、このページをくるところは紅葉の饗宴に招かれていることでしょう。確実に時間が流れてゆくを感じる季節です。諸聖人、死者の日を祝う 11 月は教会の伝統では死者の月とされています。典礼では終末に関する朗読が続き、教会の暦は年末となります！

また今年先月の 11 日から来年の 11 月の《王であるキリストの祝日》まで信仰年とされています。「《信仰の門》を通して神との交わりの生活へ、神の教会へと導かれます。」(『ポルタ・フィデイ』教皇ベネディクト 16 世)。

洗礼によって

この門から生涯にわたる旅

神との一致に至る旅に

出発しました。



洗礼の恵みによって、わたしたちは「神のいのち」に真に参与することができます。この恵みは、メッキのようにわたしたちの表面を覆うのではありません。…パン種のように中へ入り込んでゆくのです。粉に混ぜられたパン種は、その働きを外部から止めることはできません。どんどん中で広がって全体を変化させてゆきます。このように、わたしたちは「神のいのち」に包まれていると同時に、「神のいのち」が入り込み、それによって変えられているのです。

ときとして、霊的な生活と日常生活は別々に存在するかのようには思われず、霊的な生活とは「神のいのち」が徐々にわたしたちのうちに日々浸透し、わたしたちを全き神の子とするまでに中から変えてゆく生き方のことなのです。

～『いのりの道をゆく』(聖母の騎士社)より～

さまざまな出来事があり、とかくあわただしく過ぎてゆきそうな日々の生活の中で、復活されたキリストをさらに深く信じてゆきますように。

伊従 信子
ノートルダム・ド・ヴィ

インドネシア紀行〈3〉

くのり 彰

クーパンは、デンパサールより暑いと聞いていたが、それほどではなかった。日陰ではけっこう涼しく、からっとしていて、湿気のある日本よりずっと過ごしやすかった。植物などは日本では見たことがないものが多い。

着いた日の翌日は日曜日。5時起床。6時に哲学神学生と共に、朝の祈り。聖務はみな英語で行われている。8時にホールでインドネシア語のミサを共同司式。前回記したように、近隣の人々が大量押し寄せる。老若男女、一家そろって来ている。朝食をとった後、インドネシアの管区長と共に、空港へ。

今度は、ティモール島からフローレス島のバジャワへ飛ぶ。フローレス島は、バリ島とティモール島の間にある。バジャワの空港は小さく、管区長は職員とは顔見知りらしく、あっという間に外へ出ることができた。

そこから車で約一時間、山の方へと向かう。山の上に町があり、その町の中心を通り抜け、カルメル会の志願院兼修練院に到着する。この修道院は、インドネシアにカルメル会を創立に来たインドのマンジュメル管区の神父さんたちが最初に建てた修道院で、二十数年経っている。

志願者、修練者と共に、聖体賛美式を行った後、夕の祈りを唱える。志願者、修練者を合わせると、ここにも二十数名の被養成者。司祭は4名。とにかくみな若い。20代が主流のように思われる。司祭も30代か40代。

ここも約4ヘクタールの土地。門から修道院まで二三百メートルはある。気候は、山の上ということもあり、日中でも涼しく、夜は寒いぐらいであった。私は半袖の服しかなく、寒くて眠れないため、厚いジャケットを借り、それを着てベッドに横になった。

トイレは、一応水洗トイレの便器であったが、こわれていて水がたまらない。横に大きなポリバケツがあり、そこに水をため、用を足した後、柄杓で水をすくっては流す。小の場合は簡単であるが、大の場合は、流れが悪く、すぐつまってしまい、くんでは流し、くんでは流し、大奮闘であった。

修道院の玄関までの間の土地はというと、右手は果樹園、左手は公園のようになっていた。午後になると、近くの小学生ぐらいの子供たちが何人も入ってきて遊んでいる。男の子はサッカー、女の子はバレーボール？ 日本と違う点は、村全体、町全体にカトリック信者が多いことだろう。全人口の2.8%がカトリックということであるが、全人口が2億6千万人であるから、700万人以上いることになる。 (続く)

「あなたは神の国から遠くはない」(マルコ 12, 34)。

イエスが立派にお答えになったのを見て、「あらゆる掟のうちで、どれが第一でしょうか」と、一人の律法学者が尋ねました。イエスの英知で、無数にある掟の中で、第一のものを一つあげてくれと言うわけです。しかし、イエスは、一つに限定しませんでした。「第一の掟は、これである。『イスラエルよ、聞け、わたしたちの神である主は、唯一の主である』。第二の掟は、これである。『隣人を自分のように愛しなさい。』この二つにまさる掟はほかにない」と。第一の掟、神への愛、第二の掟、人への愛。イエスは、どちらかに限定しません。このイエスの態度を把握するには、「わたしたちの神である主は、唯一の主である」、この神は、人間の思考が考え出し、知性が把握した神ではなく、どのような宗教でもよいかから神と呼んでいるその神ではなく、ご自分の方からわたしたち人間にご自分の真実な命の神秘を明かしてくださった方、旧約の歴史を通して、そして、最終的には、人間となってわたしたちの間に住まれた神の子イエスによってわたしたちに知らされた神の実像に基づいて理解された神でなければなりませんから。

旧約においては、神は、出エジプト体験をはじめとするイスラエルの民の歩みを通して、ご自分が、貧しい、力のない民にどのように関わり、また、民をどこに導こうとしておられるかを教えつつ、ご自分が唯一の神であることを示してこられました。この営みが凝縮している十戒を柱にした人間の社会関係を無視して神の実像を知り、真実に神を愛することはできないのです。

新約に生きるわたしたちには、実に、イエス、わたしたちと同じ人間となられた神の御子の生涯、人間としての誕生から死と復活を通して開示された神、この方が唯一の神です。今日の聖書の箇所は律法学者には、この神秘の全貌はまだ隠されていたでしょうが、わたしたち、今日、聖書を紐解く者の眼には、明らかに、顕わにされている真実です。神は、人間イエスのすべてにおいてご自分を現されたように、また、この方へと登ってゆく道も、人間イエスを、そして、イエス自身がご自分の兄弟、ご自分の現存の姿と呼ぶ人間、隣人を通って行くものではないでしょうか。律法学者が、「神の国から遠くはない」とイエスに迎え入れられたように、「独り子を与える神」を真実に愛するのは、小さくなられたイエスとその小さい兄弟たちを愛してです。 ルカ 渡辺幹夫

年間32主日 (B)

みことばのひびき

(マルコ 12:38~44)

本日の福音は、私たちに「誰が本当に神に仕えているか？」という疑問を投げかけます。この疑問は、おおよけの場での律法学者や学問のある人々のこれみよがしの振る舞いと、金持ちの人たちと貧しいやもめが神殿の賽銭箱に入れたお金の額のコントラストから浮かび上がってくるように思えます。律法学者とファリサイ派の人たちはイメージをはっきりさせるものとして表わされています。本日イエスが私たちに語っているのは、弟子の身分の特徴は真であることだということです。これは外面的な振る舞いを通して示されるのではなく、内面的な意向で示されるものです。

本日の福音の二番目の部分に描かれている貧しいやもめと、最初の部分に描かれている律法学者とファリサイ派の人との間にははっきりしたコントラストがあります。社会的な地位はないこの女性の純粋なあわれみの心は、いわゆる宗教的な指導者たちの傲慢さと社会的な野心とは対照的なものがあります。ほんの少しのお金を出したこの女性は、容易く出すことができる多額のお金を献金した金持ちの人たちと対照的です。金持ちの人たちが出したものが本当に彼らの生活に影響を与えないとは言えません。イエスがおっしゃる点は、贈り物の価値はかならずしもその量によって評価されるのではないということです。大切なのは、自己犠牲となる贈り主の心です。やもめは自分の財産からではなく、自分の貧しさから出しているのです。

注目すべき興味深い点は、賽銭箱は実際トランペットと呼ばれていたということです。これはまるでラッパを吹くためのようにトランペットの形に作られていたからです。コインが落とされると大きな音をたて、神殿へ献金が行われたことを皆が知るところとなりました。やもめが落とした2枚の小さなコインは多分何の音もしなかったでしょうが、イエスはちゃんと注意されました。イエスはこれを敏感に察知します。貧しいやもめはイエスの褒め言葉を聞くこともなかったかもしれません。彼女は確かに神から報いを受けたでしょう。この貧しいやもめは、神の摂理に大胆に信頼して、自分が持っているほとんど全てのものを賽銭箱に入れました。彼女は2枚の小さなコインを持っていて、2枚共入れました。イエスのみ国において、皆が重要であることを忘れてはなりません。

神は生きている信仰において忍耐する人にいつも報いてくださいます。気づかれない人はいません。傲慢であればそれに気づかれますし、謙遜であればまた気づかれます。名前を誰も知らないこの貧しいやもめのように謙遜であれば、神はその人に気づき、高め、その人の犠牲に応じて報われます。香港の学校を訪問したマザーテレサのことを思い起こします。彼女は修道服の上に古いグレイのカーディガンを着て、足には古びた皮のサンダルを履いていました。2週間後、マザーはイギリスのエリザベス女王からテンブルトン賞を受けてインドに戻ってきました。マザーが女王と握手しているとき、同じカーディガンを着て同じサンダルを履いているのが写真で分りました。女王は気にかけている様子もなく、多分気づいてさえいなかったでしょう。それは大聖人の謙遜でした。エリヤに食べ物を与えたやもめは、神の心を知っていました。最後の2枚のコインを献金した貧しいやもめは、神の心を知っていました。私たちの罪のために十字架上でご自分を犠牲にされたとき、私たちの主キリストは神の心を知っていました。三者は皆、霊的な心を抱き、神の御目に善であり、受け入れられ、完全なことを行ったのです。

(Sr. Paulina)

「いちじくの木から教えを学びなさい。枝が柔らかくなり、葉が伸びると、夏の近づいたことが分かる」(マルコ 13, 28)。

このお言葉は、わたしには唐突に感じられるのです。その前後の文脈は、世界の終わり、いわゆる最後の審判への言及が述べられている、その文脈に合わないと思うのです。この文脈でしたら、同じいちじくのとえでも、「いちじくの葉が落ちたら、冬が近いことを知りなさい」との言い回し、この方が適切な気がします、イエスの時代のユダヤにもこの表現がなかったわけではないのですから。この方が、時が速く過ぎ去り、終わりの日、審判の日が切迫していると、身に染みて感じるのではないのでしょうか。少なくとも、わたしたち日本人のメンタリティーにとっては。

しかし、これは、どうも、あまりにも日本人的発想である、いえ、日本人という枠を超えて、自然界の四季のサイクルの中に生きることをよしとする自然的人間そのものの感性であって、福音、イエスが神のもとからもたらす人間の知恵や感性の産物ではない喜びの知らせには合致してはいないようなのです。ある方も、こう書いていました。「イエスは終末のしるしのたとえを、冬のイメージではなく、木が枯れることよりも木が葉を繁らせる、木の生命力が爆発する夏のイメージで表そうとしている。人間の経験、実感、知恵、感受性に捕らわれていないイエスにとって、終末は冬としてではなく、夏のイメージで把握される。つまり、終わりの日は悲しむべき生命の死に絶える日ではなく、それは喜びの日、生命の充溢の日なのである。終わりの日は、悲しむべき裁きの日ではなく、それは、神の救い、恵みの成就、神の救いの計画の完成の喜びの日なのである」と。生命が死に果てる冬ではなく、夏が近づく。生命が内に秘めて持っている活力を、老化して古く堅くなった枝にも行き渡させ、みずみずしい柔らかなものとし、その葉を繁らせ、花を咲かせ、豊饒な実を实らせる。この夏の豊かさは、イエスが、そのお言葉と生涯で、硬直化し、化石化した人間の心にもたらす救いの恵みの生命力を指し示しているのではありませんか。

実に、わたしたちは、日ごとに、生命の源イエスをわたしたちの生命のうちにお迎えしています。しかし、この訪れを、真剣に受け止めているのでしょうか。このイエスが注がれる生命、成長させようとされている活力、生命力を、自分の命の隅々にまで浸透させているのでしょうか。 ルカ 渡辺幹夫

王であるキリストの祭日 (ヨハネ 18 : 33-37)

今日は典礼年最後の主日、王であるキリストの祭日を祝います。この祭日は、宇宙万物の王であり主であるキリストの権威権能を総合して表しています

“王である”ことの真の意味を教えてください。イエスを、わたしたちは唯一の信頼すべき王として生きています。“王”というタイトルを求めることなく、血の滴る茨の王冠を被り、苦しみの極みの十字架を担われるイエス、その王としての衣は弟子たちの足を洗い拭うためのタオルです。イエスは身を持って、王職についての新しい見解を与えて下さいました。

今日の福音はローマの総督ピラトとイエスとの不思議な対面の場を現わしています。植民地を支配する権力者人間ピラトと、何も持たず唯神の国を宣教しながら巡り歩まれる神の御子イエスとの出会いです。ピラトはイエスに尋ねます、“あなたはユダヤ人の王なのか”と。罪もないのに牢に繋がれ、ひどいむちうちの刑で衰弱しておられるイエスは、勇敢に総督の前に立ち、この質問はピラト自身のものなのか、それとも彼が聞いた噂によるものなのかとお尋ねになります。ピラトと対等に話しておられるイエスをピラトは不快に思ったことでしょう。真の権力、真の権威は役職やタイトルにあるのではなく、人間の心の思いにあることをお示しになったイエスは、その国は霊的なものであると説き明かされます。イエスは“わたしは王である”と、ことばに出して明白にお答えにはなりませんでしたが、はっきりとその国と王職についてお話しになり、“わたしの国は、この世には属していない”と仰せになっています。イエスの国は正義と真理の上に建てられておりピラトには理解できないものでした。このときご自分は一人の王であるが、その国はピラトが話しているものではないことを明らかにさします。

イエスの十字架はイエスの勝利のしるしであり、イエスの王としての玉座です。それはいのち、真理、愛のための勝利でした。イエスが死に打ち勝たれたのは、イエスが死を受け入れ、苦しみの極みに耐え死を過ぎ越して下さったからです。イエスは王として、ご自分のいのちも惜しまず差し出された全くの自己放棄によって民に仕え、この世界を救って下さいました。イエスの支配は力によるものではなく、真理と愛によるものでこのことは御父の啓示が示している通りです。イエスが支配なさる神の国は、イエスがこの世のご生活で十分に証しして下さい、神の現存によって成り立っています。

イエスを“王”とすることで、わたしたちは自分の信仰を表明します。今日のミサの入祭唱が述べているように、わたしたちがイエスを愛し、イエスに聴き、イエスに仕え、イエスに従い、意識してイエスの弟子となるとき、イエスはわたしたちの真の王となられます。イエスのように、わたしたちが自分の全ての大切なもの、自分のいのちからも自由にしていただいて真の愛の人となるとき、わたしたちは神の国に属する者となり、この真の愛のための日々の葛藤、努力は、わたしたちが絶えず願っている“み国が来ますように”という祈りを現実にする大きな助けとなります。

(Sr. Paulina)

伝言

丸山知佳子

「私の人生って、一体、なんだったんだろう？」

そんなことを、つぶやいたことはありませんか？ 正直言って、私は、しょっちゅうです。年を重ねれば重ねるほど、自分の平凡さ、ちっぽけさを、しみじみと思うことが増えました。そんな時、「それでも、こういう小さな自分を、神さまは、愛してくださるんだっ！」と、一生懸命、自分に言い聞かせていたように思います。でも自分にいくらそう言い聞かせても、あまり効果がないことに最近気づきました。

そこで始めたことがあります。それは、自分の出会う人達一人ひとりに向かって、心の中で（時には直接口に出して）言うのです。

「神さまは、あなたを、どんなに、どんなに、愛しておられるでしょう！

あなたの人生を、どんなに、どんなに、大切に思っているでしょう！」と。

そういうことを、自分の出会う人達に言うと、不思議なことに、胸が痛むような感動を覚えます。「この瞬間のために、生まれて来て良かった」と思う自分がいるのです。

今、天国におられる人達が、まだこの世で旅を続けている私達に、一番伝えたいことは、もしかしたら、こういうことかもしれないと思うようになりました。

「神さまは、あなたのことを、どんなに、どんなに、愛しておられることか！

あなたの人生を、どんなに、どんなに、大切に思っておられることか！」

長く生きてるとこんなことに出くわすのかと、それは思わず唸り声を発したくなるような出来事でした。 深閑とした心の深みに、どうしようもなく密やかに、どうしようもなく哀しく沈んでいる、70年以上も前の大昔の記憶への、不意の、突然の、強烈な直撃でした。

新聞の連載小説というものを、これまであまり読むことはなかったのですが、齢を重ね体力も気力も何もかもがすべて低調となり、時間までもがのったりと過ぎるような現在の日々にあって、一日一区切りみたいな読み方も楽しめるようになったということでしょうか、目下興に入って毎朝読み継いでいる小説があります。 或る朝のこと、ほんとうに息がとまるかという思いをしたのです。

小説の中で、一人の少女が死の床にあり、少女の友達である主人公が病院へ駆けつけ、病室の前で室内からもれてくる歌声を聞くという場面です。 少女の母親が、死にゆく娘に泣きながら歌って聞かせている歌の詞が、そこに書かれていました。

お母さま 泣かずにねんねいたしましょう

あしたの朝は 涙に出て 帰るお船を 待ちましょう

「あした」という童謡の二番の歌詞なのだと、添え書きしてあります。

嗚呼、何ということ、どうして、なぜ、・・・この歌が新聞小説のここにあるのかと、心臓が波打つショックを受けて、私は瞑目し、息をととのえました。

遠い遙か昔の話になりますが、「あした」という童謡の二番は、幼かった私が幼い心の内に深く染み込ませている子守歌なのです。旋律と詞は、私の原風景ともいえる或る記憶に深く沈んで、温存されているのです。

私は4歳くらいでしょうか、或る夜、私を寝かせようと添い寝する母が、この歌を歌いながら泣いていたのです。それもおぼろ気な記憶では2度だったか、3度だったか、とにかく母の泣く姿を目にするのは一度ならずでした。

幼い私は、身も世もないほどの心細さにいたたまらなく、耐えきれずに、泣かないで、お母さん泣かないでと自分も泣きじゃくるしかありませんでした。

寄る辺を失う墜落のような寂寥感、母の涙の顔、私の髪をなでる切切とした指の感触を、今ここにあるかのように想いだせる気がしています。

泣きながら子守歌を歌う20代半ばの若い母が、その頃一体どのような痛みを抱えていたのか、できれば母と話してみたかった思いはあるのですが、果た

すことないままに母は逝ってしまい、70年以上も置き去りにされたようなはぐれた子守歌「あした」が、私の内にあるのです。

生きていくなかで、私たちは時として自分ではどうすることもできないほどの耐え難さに襲われるのですが、そんな時、殆ど無意識に助けを求めて名を呼びます。「神さま」「マリアさま」「主よ」・・・と。 私が最もたくさん呼んだのは、「お母さん」なのかもしれません。

今、ふと心をよぎるものがあります。

1981年5月のこと、ヨハネパウロ二世パパ様がマフィアの銃撃に遭われる事件がありました。パパ様は薄れる意識のなかで、「アヴェマリア」の祈りを唱えておられたと、当時の新聞記事を読んで感極まった覚えがあります。

呼び求める魂の最果てを、身をもって支え、共に祈られるお方を、私はその時全身で感じたのです。そして、私たちの魂の奥底にも、識閥を越えて訪れる祈りを賜っていることを深く知ったのです。

祈りは、「アヴェマリア」は、毎日の生活のなかで寄せては返す波のように、くり返されくり返されて身に溶け入り、いつしか離れ難く一体となっていくのでしょうか。 あたかも幼心に刻まれていく子守歌のように。

新聞の連載小説に不意を突かれ、密やかな孤独の記憶に立ち帰ってしまい、とっさには魂が時間空間を絶して彷徨うかの感がありましたが、心を落ち着かせじっと静めてみれば、70年という年月への恩恵は私を越えて余りあり、新しい地平が開かれていました。

無上の哀しみは無上の幸いと等しいことを知り、全てはそのままで至上の賜物であることを知り、泣く幼い私は深い慰めに包まれていることを知って、今驚きつつ心打たれます。子守歌「あした」はあたかも祈りのように思えます。

もう暫らくすれば、彼の国で母と会えることでしょう。

共に涙はぬぐい去られて、固く相抱くでしょう。

母は「あした」を歌ってくれるのでしょうか。

いのちの言葉 10月

お言葉ですから、網を降ろしてみましよう。

(ルカ5・5)

イエスは、シモンの舟に腰を下ろして人々に教えられ、それからシモンとその仲間に、海へ網を降ろすように言われました。シモンは、夜通し苦勞しても何もとれなかったことを伝えながらも、「お言葉ですから、網を降ろしてみましよう」と言いました。

そして網を降ろすと、網が破れそうになるほど魚で一杯になり、仲間がシモンを助けに来ましたが、彼らの舟も沈みそうになるほどの大漁でした。シモンは、ヤコブやヨハネと共に非常に驚き、イエスの足元にひれ伏して「罪人の私から離れてください」と頼みました。しかしイエスは「恐れることはない。今から後、あなたは人間をとる漁師になる」と言われました。この時から、シモン、ヤコブ、ヨハネは、イエスの弟子となりました。

これは、使徒たちの将来の使命を象徴する奇跡的大漁の物語です。このペトロの態度は、他の使徒たちや彼の後継者だけでなく、キリスト者一人ひとりにとっての模範です。

お言葉ですから、網を降ろしてみましよう。

漁の経験が豊かなペトロですから、何もとれずに夜が明け、さらに条件が悪くなる日中に、網を降ろすようにというイエスの招きを、笑って断ることもできたでしょう。しかしペトロは自分の理屈を超え、イエスを信頼しました。

このような状況は、今日もまた、信者

一人ひとりが、信者であるがゆえに通らなければならないものです。実際、信仰は、さまざまな方法で試されます。

私たちの生きている世界が、すべてを、気のゆるみや平凡さ、放任へと誘うように見える中で、イエスに従うとは決断と実行、忍耐を要します。その課題はあまりにも大きく、たどり着くのが不可能のように思われ、始める前から失敗に終わると思いきみかねません。

ですから、前進するための力、また周りの状況や社会的環境、友人やマスコミの流れに抵抗するための力が必要です。

それは、日々、刻々と戦わなければならない、厳しい試練です。

しかし、この試練に向き合い、受け入れるなら、私たちはキリスト者として成熟し、イエスの並外れた言葉は真実であり、その約束が実現するのを経験するでしょう。また、私たちの想像をはるかに超える、魅力的で神聖な冒険を人生の中では始めることができます。この世界は苦しみが多く、単調で、実りのないことがしばしばですが、それにもかかわらず、私たちは、神がご自分に従う人をあらゆる恵みで満たし、永遠のいのちのほかにも、この地上でも百倍の報いを与えてくださることを証しできるでしょう。それは、今の時代にもまた繰り返される、ペトロの奇跡的な大漁です。

お言葉ですから、網を降ろしてみましよう。

では、このみ言葉をどのように生きればいいでしょうか。

私たちがペトロと同じ選択をしましょう。「お言葉ですから…」と、イエスのみ言葉に信頼すること、イエスがお求めになることに疑いを抱かず、むしろ、イエスのみ言葉を、私たちの態度、行い、生活の土台とすることです。

そのとき、最も堅固で、確かなものの上に、私たちは自分の人生を築くことになるでしょう。人間的な力が足りないところに、神が介入なさり、まさに人間的に不可能に思われるところで、いのちが生まれるのを、驚きのうちに目にすることでしょう。

キアラ・ルービック

* フォコラーレの創立者キアラ・ルービックが、2008年3月14日に帰天した後、彼女が過去に残した解説を「いのちの言葉」として取り上げています。今月の言葉は、1983年2月に発表されたものです。

★ **いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。**

み言葉を生きて

家庭では、主人との関係でよく失敗します。お互いに良く知っているので、“また、いつもそうだ”と裁いてしまう時があります。ある時彼は風邪をひいて何日も辛そうでした。私は家事や子供たちのことでとても忙しかったのでつい“風邪くらいで、私は風邪ひく暇もないんだよ！”と内心想いながら、“大丈夫？”と、うわべだけの言葉をかけました。でもその時、イエス様のことが思い浮かびました。そして、私の汚い心を神様に向けて主人の中のイエス様を愛そうと努めました。その日の計画を後にして、一日中、退職した老夫婦のように、一緒にお茶を飲んだり食事したり、沢山の話もしました。朝きつかった彼の顔はだんだん穏やかになりました。そして、私に“ありがとう！”と言ってくれました。夕方、私がパソコンの仕事をしていると主人はお茶を持ってきてくれ、そして、いきなり20年前の恋愛時代の写真を私に見せてくれました。その時、イエス様がなさった全てはまさに“愛”だったんだなと思いました。

●お知らせ いのちの言葉の集い 関東：

とき： 10月14日（日）
14：00から
ところ： 藤沢市労働会館にて

長崎：

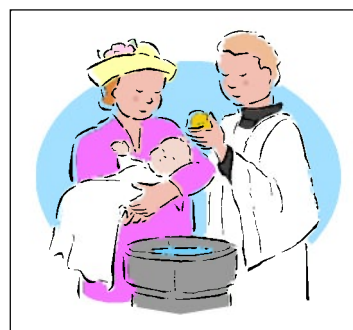
とき： 10月28日（日）
14：00から16：00
ところ： 長崎男子フォコラーレ・センター

連絡先

フォコラーレ：03-3707-4018/03-5370-6424
E-mail:tokyofocfem@ybb.ne.jp

ホームページ：フォコラーレで検索
<http://focolare.world.coocan.jp/>

ヘンリ・ナーウエンの 旅路の糧（159）



イエスは祝福された方

イエスは祝福された方です。“benediction”という言葉は。「祝福」という意味のラテン語です。それは、「良いこと(bene)を言うこと(dicere)」に由来します。イエスは、神が彼について良いことを言われたがゆえに、祝福された方なのです。イエスがヨルダン川で洗礼を受けた後で、私たちはとてもはっきりと神の祝福を聞くことができます。その時、「突然、天から声があった。『これは私の愛する子、私の心に適う者』」（マタ 3・16-17）と。

この祝福をもって、イエスは公けの活動を開始します。そしてその活動のすべては、この祝福が単にイエスのためだけでなく、彼に従うすべての者のためであることを、私たちに知らせているのです。

(0522)

キリストと共に共同相続人

私たちは、自分がキリスト以下の者だと思い続けています。こうして私たちは、キリスト者の生活におけるまったき苦しみばかりでなく、まったき光栄をも避けているのです。しかし、イエスを導いた霊は、私たちをも導いています。パウロは言います。「この霊こそは、私たちが神の子供であることを、私たちの霊と一緒に証ししてください。もし子供であれば、相続人でもあります。神の相続人、しかもキリストと共同の相続人です」（ロマ 8・16-17）。

私たちがこの真理に従って毎日を生き始めるならば、私たちの生活は根本的に変えられていくことでしょう。私たちは、神の子供の完全な自由を知るようになるばかりでなく、この世を完全に退けることを知るようになるのです。私たちが苦しみを避けようとして、光栄を求めなくなるということは、理解できます。けれども、もし私たちがキリストの苦しみに喜んで与るならば、その光栄にも与るようになるでしょう（ロマ 8・17 参照）。

(0606)

(九里 彰訳)

十字架の聖ヨハネ こぼれ話 (63)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

心配性の人への助言

十字架のヨハネの、ある心配性のカルメル会修道女への手紙は有名です。一人ひとりに一番ふさわしい方策というか処方箋を与える術にたけていた彼は、彼女の心配性にブレーキをかけようと試みます。聖霊降臨の祭日の前の日々や当日やその後の八日間の間、心配に襲われても自分の心の内部に入るように指示します。すなわち、さまざまな疑いや心配に襲われても、それらを脇に置いて、聖霊に身をまかせ、それに所有されたままとなるようにと。しかし私は、「読み、祈り、神の内において、あなたの幸せと健康を喜びなさい」と助言しているこの手紙を長々と注釈するつもりはありません。

ここでは典礼に関するこぼれ話として、祈りを唱えることに退屈し心配性となっている人々への助言を取り上げることにします。

「独りごとを言っていることがあります。祈りを再び唱えようとする、よく唱えられなくなっているのに気づきます」。

聖人は、明らかに良く祈りを唱えることを望んでいますが、それはさまざまな心配や無駄な繰り返しなしにということです。

どのようによく祈りを唱え、典礼の祈りの間、じっとしていたかについて、アロンソ神父に起きたことを思い出すことができるでしょう。彼はカルトゥージオ会へ入るための準備をしていましたが、十字架のヨハネと仲間の修道士たちが、彼をテレジアの家族へと引きつけたのです。

彼らが歌隊所で祈りを唱えていた時のことです。この時、このアロンソ修士は、まだ修練者でしたが、突然、祈禱書を閉じ、ランプの灯心を切りに行きます。

聖人はすぐそばに行って、彼にこう言います。

「それはそのままにして、今やっていることに神経を集中しなさい」。

聖人が言っているように、祈りや祈りの香りは、ランプのまあまあ明るい光よりずっと価値があるのです。

(続く)

跣足カルメル修道会HP (International)

世界的な跣足カルメル修道会のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com> の記事を紹介します。



◀ Communications (時事通信) ▶

「完徳の道」、祈りの道

カニサレス枢機卿のことば：「聖テレサは希望の使者、神の宣教者です。」

マドリッド発—スペイン（2012年9月18日）

「聖テレサは、“信仰年”に問題とされていることや、シノドス（世界代表司教会議）が新しい福音宣教によって“信仰を伝えていくこと”について探し求めていることのシンボルとなるでしょう。」と、アントニオ・カニザレス枢機卿は、本日発行のスペインの新聞“ラ・ラソン”紙上の週刊コラムに掲載しました。

バチカンの典礼秘跡省長官は、アヴィラの聖テレサを10月に開催される“新しい福音宣教”をテーマとするシノドスの参考例として提示しました。

「まさにこの時、聖テレサの光の輝きは、“信仰年”において神がお望みになることを照らし出しています。」とこのスペインの長官は述べています。「神の強力な友」とは、主との一致を生き、その一致、すなわち信仰そのものから生きる人々です。

アントニオ・カニザレス枢機卿は、聖テレサが共同体の修道女たちのために授かった祈りへの招きのうちに、信仰の伝達と新しい福音宣教の極意を見出しました。

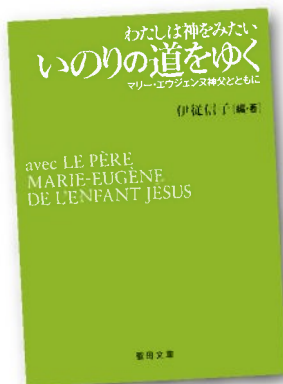
「祈りなくして“神の強力な友”はいません。神について力強く、生き生きと、魅力的に、聴きとりやすく、はっきりとした言葉で語るのが“神の強力な友”です。祈りがなければ、神への信仰はありません。」と書いています。

そして、“聖テレサの「完徳の道」——それは、彼女が教えているように祈り以外にはないので——に従う人は誰でも、神を知り、神のみ旨を知るでしょう”と述べています。



少しの時間、**新刊案内**
いのりのみ言葉に
耳をかたむけてみませんか

わたしは神をみたい **いのりの道をゆく**
マリー・エウジェンヌ神父とともに



伊従信子編・著

師は、神と親しく生きるように神が多くの人々を呼んでおられること、そして、その人々を神との一致にまで導くように、神が自分を召されたことを自覚していました。ですから、師はその生涯の終わりまで、社会で日々の生活を営むすべてのキリスト信者が聖性に召されていることを強調し、聖性への道を提供する務めを使徒職とする人々の養成を熱く望んでいました。
〔「はじめに」より〕

ISBN978-4-88216-339-8 C0195

268 281頁 定価630円(税込)

▼▼▼こちらもおすすめ!▼▼▼



神と親しく生きる **いのりの道**

幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師とともに

R. ドグレール / J. ギシャル 著

伊従信子 訳

現代の狂騒の中で、大切な何かを見失っていないだろうか……真理、善、美、生きる意味、神との関わりを捜し求めている人たちへ送るメッセージ。

ISBN978-4-88216-307-7 C0195

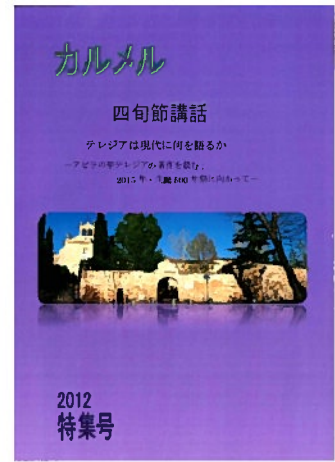
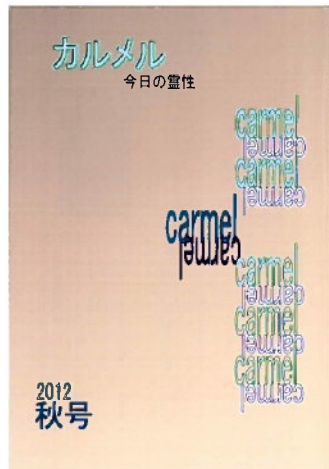
246 207頁 定価525円(税込)

聖母の騎士社 ☎850-0012 長崎市本河内2-2-1
TEL.095-824-2080 FAX.095-823-5340

ご注文・お問い合わせ先



「カルメル」
今日の霊性・秋号
特集号・四旬節講話



2012 秋 No.346

カルメル 2012 特集号

「テレジアは現代に何を語るか」

● 目次 ●

テレジアの涙

『完徳の道』に見る「祈りと生活」

アピラの聖テレジア(アヴィラの聖テレサ)の

『創立史』にみる信仰の歩み

神の住いであるわたしたち

——『靈魂の城』に聴きながら

三位一体の神との交わりの崇高な神秘体験、
地上に苦しむキリストの神秘体との連帯

◎ 目次 ◎

◎ 今年の特集 イエスの聖テレジア(3)

現代における「従順」の意味 (3)

——聖テレジアの「創立史」を中心にして

アピラのテレサとエディット・シュクインの靈約絆

——今、ここで、聖女が語るもの

カルメルにおいて「新しい福音宣教」を考える (1)

聖性への招き 十字架の聖ヨハネに導かれて (8)

変容までの長い道のり マリー・エウジェンヌ

編・訳 伊藤信子

アルジェリアの白い殉教者たち(後編)

僕はもう怖がりたくない

砂漠の修道院に入る (2)

新井延和

九里 彰

松田浩一

中川博道

渡辺幹夫

九里 彰

須沢かおり

中川博道

23

高橋重幸

森 みさ

奥村一郎

2

10

22

35

46

購読のご案内

雑誌「カルメル」はどなたでもご購入できます。(カトリック書店：
サンパウロ、ドンボスコ書店等) 定価は、一冊460円です。

- 送付ご希望の方は、600円【内訳 460円(+送料140円)】を下記へお振込み下さい。
- まとめてご購入希望の方は、年会費(年5冊：春夏秋冬号・特集号【460円×5=2,300円】+送料【700円】計3,000円)を下記へお振込み下さい。

郵便振替：00190-4-195457 跣足カルメル修道会
お問い合わせは、事務担当竹田まで。

TEL (03) 5706-8356

カルメル会の企画案内



上野毛霊性センター ～ '13年3月

黙想企画 ** 聖テレジア修道院 (黙想) **

1. 一泊聖書深読 指導：新井延和神父

(毎回金曜日夕食～土曜日16時)

2012年

11月30日～12月 1日

2013年

3月 1日～ 3月 2日

2. 奉献生活者の為の黙想会

12月27日(木) 18時～2013年1月5日(土) 福田正範神父

3. 木曜黙想会(毎回木曜日10時～16時)

年間テーマ 「信仰」

11月29日 「信仰とは？」 中川博道神父

2013年度 年間テーマ 「信仰と宣教」

1月10日 古川利雅神父

3月 7日 中川博道神父

4. 金曜黙想会 カルメルの聖人 (毎回金曜日10時～16時)

12月14日 「十字架の聖ヨハネ」 中川博道神父

2013年

2月22日 「カルメルの原始会則の霊性」 渡辺幹夫神父

5. 青年黙想会(男女) 福田正範神父、カルメル会士

11月23日(金)～11月25日(日) 「信仰に生きる」

6. 祭日のミサに参加するために

【クリスマス】 チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

2012年12月24日(月・振休)～25日(火)《講話なし、夕食なし》

【聖週間】 チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

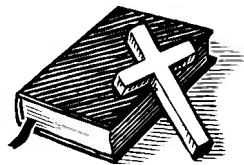
聖木曜日から復活祭まで通して参加可能です。またどの曜日からでも参加可能です。

2013年 3月28日(木)～31日(日)《講話なし、各食事つき》

7. 聖週間前の黙想会（2013年）

福田正範神父

2013年 3月17日（日）18時～3月19日（火）16時 過ぎ越しの子羊・キリスト



電話でのお問い合わせは午前9時から午後4時45分までにお願いします。
またお申し込みは電話でもお受けしますが、間違いを避け、時間も問いません
のでなるべくFAX・はがき・Eメールでお願い致します（お返事はいたします）

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院（黙想）

TEL 03-5706-7355

FAX 03-3704-1764

e-mail:mokusou@carmel-monastery.jp



カルメル青年黙想会

信仰に生きる

カトリック教会は 2012 年 10月 11日から 2013年 11月 24 日まで信仰年を迎えています。

この機会に同世代の青年男女たち、またカルメル会士と共に「信仰」について理解を深め、今までの歩みを振り返り、今後の生き方を見つめてみませんか。



ANNO DELLA FEDE 2012
2013

- 日 時 : 11月23日(金) 15時 ~ 25日(日) 16時
場 所 : カルメル会 聖テレジア修道院(黙想)
対 象 : 高校生以上の青年男女(35歳まで)
定 員 : 20名
費 用 : 一般 10,000円 学生 7,000円
締 切 : 11月16日(金) <必着>
指 導 : 福田正範神父・カルメル会士

※住所・氏名・性別・年齢・電話番号・所属教会名を記入し、ハガキ・FAX・E-mailの何れかで下記まで。折り返し、こちらよりご連絡させていただきます。



158-0093 世田谷区上野毛2-14-25
カルメル会 聖テレジア修道院(黙想)
電 話 : 03(5706)7355
FAX : 03(3704)1764
E-mail : mokusou@carmel-monastery.jp



聖書深読黙想会

〈一泊〉

聖書は、いろいろな方法で読むことができます。
指定された主のみ言葉を、幾人かと共に読み、それを互いに分かち合います。
聖霊の照らしを受けながら、自分に語られる主のみ言葉を深く味わい、共に交わる人々と、お互いに心を養う機会としましょう。神と人に心を開くことは、福音を生きたることです。皆様のご参加をお待ちしています。

* 日時：2012年11月30日（金）18時～12月1日（土）16時
（曜日が金曜～土曜日となりましたのでご注意ください）

* 場所：カルメル会聖テレジア修道院黙想・黙想の家

* 指導：新井延和師（カルメル会司祭）

* 会費：¥7000

* 持ち物：筆記用具、洗面用具、パジャマ

（タオル、バスタオルは、各部屋に備えあります）

聖書、祈りの本は、黙想の家にあります。



参考書：「聖書深読法の生いたち」（奥村一郎著 ¥1050）

ご希望の方は、黙想の家でお求め下さい。



お問合せ・お申込は、TEL、FAX、ハガキにてお願いします。

〒158-0093 世田谷区上野毛 2-14-25

カルメル会聖テレジア修道院(黙想)

Tel.03-5706-7355

Fax.03-3704-1764



講座のご案内

■場所：カトリック上野毛教会（信徒会館ホール）

■担当：中川博道（カルメル修道会）

■どなたでもいつからでもご参加ください



カルメルの靈性に親しむ

朝のクラス・火曜日

《10:30~12:00》

夜のクラス・金曜日

《19:15~20:45》

11月20日	11月16日
12月11日	12月11日(火曜日)
2013年 2月26日	2013年 3月1日

キリストとの親しさ

朝のクラス・火曜日

《10:30~12:00》

夜のクラス・金曜日

《19:15~20:45》

10月30日	11月2日
12月4日	12月4日(火曜日)
2013年 2月12日	2013年 2月15日
3月12日	3月15日

キリスト教の基本を学ぶ

—洗礼準備の為、又キリスト教の基本を学びなおす為に—

いずれも 金曜日

朝のクラス《10:30~12:00》 夜のクラス《19:30~21:00》

12	11月9日	「キリストに近づく」
13	11月30日	「教会：キリストに呼び集められた人々の集まり」(1)
14	12月7日	「教会：キリストに呼び集められた人々の集まり」(2)
15	12月21日	「キリストと共に歩む道」(1)
16	1月11日	「キリストと共に歩む道」(2)
17	1月25日	「キリストと共に歩む道」(3)
18	2月8日	「主の祈り」

お問合せ: carmel-reisei@hotmail.co.jp

2012年 黙想会案内 (宇治カルメル会)

一般のための黙想 1泊2日(午後5時～午後4時)

11月24日(土)～25日(日) 黙示録 新井延和神父

聖書深読黙想会 1日(午前10時～午後4時)

12月22日(土) 新井延和神父

水曜の黙想(午前10時～午後4時)

11月14日(水) キリストの第二の到来 今泉健神父

12月12日(水) 受肉 新井延和神父

待降節の黙想(午後5時～午後4時)

12月1日(土)～12月2日(日) 今泉健神父 肉となったみことば

カルメル青年黙想会(午後5時～午後4時)

11月10日(土)～11月11日(日) 松田浩一神父 今泉健神父 観想者聖マリアに従う

奉獻生活者の黙想(午後5時～午前9時)

12月27日(木)～1月5日(土) 新井延和神父

祭日のミサに参加するために

【クリスマス】チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11時

12月24日(月)～12月25日(火) [講話なし、各食事つき]



—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。—

☆お申し込みは、電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールで お名前と連絡先を御記入の上、お申し込み下さい。お電話は、なるべく午前9時～午後5時の間にお願いいたします。受け付けが休みの場合は、その場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様をお願いいたします。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)

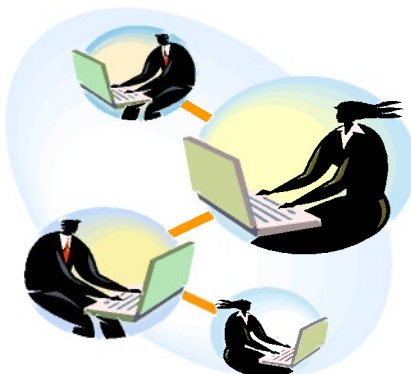
Tel 0774-32-7016 , Fax 0774-32-7457

E-Mail: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

カルメル青年黙想会

テーマ：観想者聖マリアに従う

ネット社会の中で



対象：青年男女30歳まで

場所：宇治聖テレジア修道院（黙想）

指導：松田 浩一神父、今泉 健神父

日時：2012年11月10日（土）受付開始 16時～11日（日）17時

連絡先：カルメル会宇治聖テレジア修道院（黙想）

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

Tel 0774-32-7016

Fax 0774-32-7457

Email: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

講座：テレジアは現代に何を語るか

＜アビラの聖テレジアの生誕 500 年祭に向けて、彼女の著作を読む＞

場所：京都河原町カテドラル横の教区事務局 6F ホール

日時：下記の各月日の午後 2 時半より 4 時まで

入場無料

5 月 19 日（土） 新井延和 神父

『自叙伝』による「テレジアの涙」

6 月 16 日（土） 松田浩一 神父

『創立史』にみる信仰の歩み

9 月 22 日（土） 九里 彰 神父

『完徳の道』に見る「祈りと生活」

10 月 20 日（土） 中川博道 神父

「神の住まいであるわたしたち」

『靈魂の城』を聴きながら

11 月 17 日（土） 渡辺幹夫 神父

「三位一体の神との交わりの崇高な神秘体験、
地上に苦しむキリストの神秘体との連帯」

『小品集』による



男子跣足カルメル修道会 宇治修道院へのお問い合わせ

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

男子跣足カルメル修道会宇治修道院

TEL 0774-32-7456

FAX 0774-32-7457

 teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

『社会人(働いている人)のための霊的同伴』

— 一日常のキリスト教霊性を求めて —

日々、現代社会で忙しく働いている皆様に、この静かな一時を提供する企画です。この一泊の企画は、キリスト者の霊的・心的修養を目的として、**霊的同伴(スピリチュアル・コーチング)**を中心としながら、皆様のお手伝いをします。

【内容】

- この企画は、個人的霊的修養でもありますので、一般的な講話はありません。
- 各人の信仰からの日常生活を見つめる視点(霊的理解)を促進しますので、この静かな一時の中で短い個別同伴(一人 30 分)を行います。
- メソッドの一つとしてスピリチュアル・コーチングを適用して、参加者一人ひとりの視点を尊重します。
- キリスト者としてのパーソナルな統合はキリストのうちに行為されるものですので、信仰・希望・愛を培い、この三つの対神徳をベースにおいて行います。

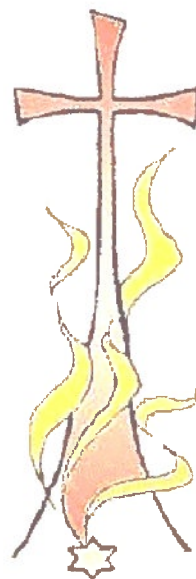
【参加者人数】

6 人

【開催日】

- | | | |
|---|-------|------------------|
| ① | 2012年 | 1月13日(金)～14日(土) |
| ② | | 2月10日(金)～11日(土) |
| ③ | | 3月16日(金)～17日(土) |
| ④ | | 4月13日(金)～14日(土) |
| ⑤ | | 6月 8日(金)～ 9日(土) |
| ⑥ | | 7月13日(金)～14日(土) |
| ⑦ | | 9月 7日(金)～ 8日(土) |
| ⑧ | | 10月12日(金)～13日(土) |
| ⑨ | | 11月 9日(金)～10日(土) |
| ⑩ | 2013年 | 1月25日(金)～26日(土) |
| ⑪ | | 2月 8日(金)～ 9日(土) |
| ⑫ | | 3月 8日(金)～ 9日(土) |

(毎回金曜日 20時(夕食なし)～土曜日 15時)



【参加費】 各回 5,500 円

【霊的同伴】 松田浩一神父(カルメル会士)

【申込み方法】 参加希望者は、前日の木曜日 16:45 迄に、下記の聖テレジア修道院(黙想)へ FAX、はがき、Eメールで申し込んでください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12
 カルメル会宇治聖テレジア修道院(黙想)
 Tel 0774-32-7016、Fax 0774-32-7457
 E-Mail: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

「立ちどまって、ひとりになって、聴いてみよう！」

～都会の中の一泊静修～（2012）

「イエスにお目にかかりたいのです」

—今の時代から「イエスに会いたい」と問われているわたしたち—

「イエスにお目にかかりたいのです」(ヨハネ 12:21)。この願いは、(中略)大聖年を過ごした私たちの耳にも霊的にこだましています。二千年前の巡礼者のように、今日の人々は今日の信仰者に、たとえ意識的にでなくとも、キリストについて「語ってほしい」だけでなく、ある意味でキリストに「会いたい」と願っています。教会の務めは、歴史のあらゆる時代にキリストの光を放つことであり、今日も、新しい千年期の人々の前に、キリストのみ顔の光の輝かせることではないでしょうか。

しかし、わたしたちがまずキリストのみ顔を親想しない限り、わたしたちのあかしは耐え難いほど貧弱なものであるに違いありません。
(教皇ヨハネパウロ二世使徒的書簡「新千年期の初めに」 p. 22)

第1回	1月9日(月・祝)	キリストの御顔の親想と宣教(全体の導入)	中川博道神父 (上野毛修道院)
第2回	2月 4日(土)	苦しみとイエスに出あうこと	福田正範神父 (上野毛修道院)
第3回	3月31日(土)	イエスの聖テレジアにおけるキリストの福音	松田浩一神父 (宇治修道院)
第4回	4月14日(土)	復活したキリスト：復活のラウレンシオ	今泉健神父 (宇治修道院)
第5回	5月26日(土)	聖霊が働く	新井延和神父 (宇治修道院)
第6回	6月16日(土)	三位一体のエリザベットと宣教	九里章神父 (本部修道院)
第7回	7月 7日(土)	聖体と宣教：ヘルマン・コーヘン	古川閑雅神父 (上野毛修道院)
第8回	9月22日(土・祝)	マリー・エウジェニス姉 人々を神への親しさへと導く	Sr.伊従信子 (ノートルダム・ド・ヴィ)
第9回	10月20日(土)	布教の保護者、幼きイエスの聖テレジア	Sr.パウリナ (宣教カルメル修院)
第10回	11月23日(金・祝)	十字架の聖ヨハネと宣教	九里章神父 (本部修道院)

- * 時間 AM10:00～PM4:00
- * 場所 カトリック日比野教会(地下鉄・名城線日比野下車徒歩約5分) *聖テレジア幼稚園隣接
- * 参加費 1,000円
- * 持ってくるもの 聖書、筆記用具、ロザリオ、弁当
- * 定員 約30名
- * プログラム
 - 10:00～ 祈り・導入・黙想
 - 10:30～ 講話(1)
黙想・赦しの秘跡または面接
 - 11:50～ 昼の祈り・お告げの祈り
 - 12:15～ 昼食
 - 12:50～ 黙想・赦しの秘跡または面接
 - 13:30～ 講話(2)
 - 14:45～ ミサ
 - 15:30～ 茶話会・分かち合い
 - 16:00～ 終了予定

☞ 申し込みは、下記の住所へハガキかFAXで、氏名・住所・TEL、(所属教会)を記載の上、開催日の3日前までに必着のこと。なお、日比野教会で葬式などがある場合は、中止となりますので、ご了承下さい。

☆ 名古屋カルメル霊性センター

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝4-5-17 カルメル会日比野修道院 FAX 052-671-1825

一日静修連絡係 〒465-0058 名古屋市長東区貴船3-2115 小林 厚・晃子

TEL・FAX 052-701-3685

土曜フレックスタイム静修

毎月第3土曜日 13:30 ~ 16:00 の予定で行います。

御自分の都合に合わせて好きな時間に参加でき（来る時間も帰る時間も自由）、
靈的にだけでなく、心身ともにリフレッシュできる時間として御利用下さい。

日時 毎月第3土曜日 13:00 ~ 16:00

場所 三馬教会（石川県金沢市）

プログラム

13:30 ~ 15min. 聖書朗読、短い講話

14:30 ~ 15min. ベネディクション、聖体顕示

15:30 ~ 15min. 聖体拝領

16:00 ~ サルヴェレジナ、終了

各合間の時間は、各自自由に黙想しながら祈る時間です。



靈性センター

毎月第2日曜日 14:00 ~ 15:00 カルメル靈性センターの講話があります。

日曜日、午後の一時、心の耳を澄ませてみましょう。

日時 毎月第2日曜日

場所 三馬教会（石川県金沢市）

プログラム

14:00 ~ 講話（講師：カルメル会士）

15:00 ~ ミサ

カルメル靈性センター

〒 921-8162

金沢市三馬3丁目324番地

カルメル会 三馬修道院

三上 和久神父迄

Tel. 076-244-7788

聖書深読センターのご案内

- 1 東京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。
- 2 宇治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。

通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち2箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解説が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月 18,900円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は 16,900円

講師：九里彰師（奇数月） 新井延和師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル

私書箱21号 朝日カルチャーセンター通信講座部

電話03-3344-2527（直通）

2 ミニ深読

グループで2、3時間かけて聖書深読法の一部を行います。

聖書深読黙想会に参加経験のある方に限ります。

遠方に、参加希望者が多数いる場合には、有光、またはSrパウリーナが指導に行くことも可能です。

問い合わせは「聖書深読センター」事務局 Srパウリーナまでご連絡下さい。

◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センターにお問い合わせ下さい。



聖書深読センター

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

所長：奥村一郎神父 事務局長：新井延和神父 連絡先：Srパウリーナ

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp

『わがテレーズ 愛の成長』 重版のお知らせ

マリー・エウジェンヌ師が尊者に上げられたのを機に

絶版となっていました『わがテレーズ』が重版されました！



マリー・エウジェンヌ 著
伊從 信子 訳
サンパウロ 出版 173 ページ

現代社会は 神に飢え渴くものにとってはまさに水も食べ物もない荒野である。
それでも 神に向かう旅路を歩み続けなければならないとするならば、
どうしたらよいのだろう。

本書は、この重要な問いに応えてくれる。

「自分が無に過ぎないことを認めて、幼子のように、神のみ腕に自分を委ねさえすれば足りる」神への単純なまなごしを生きる、これならば信徒にも可能なことである。

～森 一弘 司教～
表紙のとびらより

諸所の企画案内



心のいほり 内観黙想センター
真命山 霊性交流センター
リーゼンフーパー神父キリスト教講座
ノートルダム・ド・ヴィ
マリアの御心会
ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院
サダナ瞑想
慈しみ深き会
CWC (キリスト者婦人の集い)

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご紹介下さい。
よろしくお願い致します。



諸所の黙想企画ご案内

※各黙想内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

心のいほり 内観黙想センター

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などにご注意ください。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み関西地区の会場は6万円、他地区は6万5千円です。

◎Eメール・ファックス・手紙でセンターに問い合わせてください。電話では取り次いでおりません。

申し込みは10日前迄に完了、お願いします。会場予約準備がありますので。

◎572-0001 大阪府寝屋川市成田東町3-27「心のいほり 内観瞑想センター」藤原神父
FAX 072・802・5026 Eメール fujinao1944@nifty.com
<http://www.com-unity.co.jp/naikan> (ホームページ・アドレス)

◎予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

(★)印の会場では、藤原神父以外の司祭も面接同行する可能性があります。

6泊7日 開始日午後2時より 終了日午後2時まで

2012年予定

N 4 10/28 (日) -11/3 (土) 滋賀唐崎・ノートルダム

K 5 12/01 (土) -12/07 (金) 東京・小金井・聖霊会

2013年予定

K 1 1/26 (土) -2/1 (金) 東京・小金井・聖霊会

M 1 2/24 (日) -3/2 (土) 宝塚売布・女子御受難会

N 1 3/6 (水) -3/12 (火) 滋賀唐崎・ノートルダム

K 2 4/6 (土) -4/12 (金) 東京・小金井・聖霊会

S 1 4/14 (日) -4/20 (土) 千葉白子・十字架 イエスベネディクト会

N 2 5/2 (木) -5/8 (水) 滋賀唐崎・ノートルダム

K 3 6/7 (金) -6/9 (日) 東京・小金井・聖霊会 (研修会 2泊3日)

M 2 6/23 (日) -6/29 (土) 宝塚売布・女子御受難会

T 1 7/22 (月) -7/28 (日) 兵庫西宮・女子トラピスチヌ

K 4 8/24 (土) -8/30 (金) 東京・小金井・聖霊会

M 3 9/10 (火) -9/16 (月) 宝塚売布・女子御受難会

真命山の靈性



自然 神はすべてを造り人の手にゆだねられた

陽の昇るところから
陽の沈むところまで **祈り**



静けさ 沈黙の中に神の言葉を聞こう

信仰体験を分かち **交わり**

御聖体、愛の秘跡



- 1月12日 愛の秘跡である御聖体
- 2月9日 信仰の神秘
- 3月8日 「過越」の子羊
- 4月12日 教会を生み出す御聖体
- 5月10日 御聖体とおとめマリア
- 6月14日 キリストによって、キリストとともに、キリストの内に御聖体に生かされて生きる
- 8月 休み
- 9月13日 御聖体の典礼と美
- 10月11日 御聖体と福音の宣教
- 11月8日 御聖体礼拝
- 12月13日 終末の宴

指導者
フランコ・ソットコルノラ神父
(真命山院長)
ダニエレ サルティ・サルトリ
神父
Sr.マリア デ・ジョウルジ

申し込み先
865-0133
熊本県玉名郡和水町1391-7
真命山諸宗教対話・靈性交流センター
TEL 0968-85-3100
Fax 0968-85-3186
E-mail: shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

個人またはグループでの黙想会や研修会も歓迎いたします。
(要予約)

●キリスト教入門講座

金曜日 18時45分～20時30分
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。

●キリスト教理解講座

毎月第1・第3・第5火曜日 18時45分～20時30分
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。
キリスト教の基礎知識を持っている方。2年間のコース。信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、キリスト教の中心的テーマを探求します。

●土曜アカデミー 以下の土曜日、

9時30分～12時15分、岐部ホール4階404、
19・20世紀近代・現代のキリスト教関係の
思想・哲学・神学を考察します。思想史とキリスト教の
関係に関心を持っている方、プログラム等に関してHP(文末)を見て下さい。
冬学期: 近代後半・現代の霊性と思想 (18世紀～21世紀初頭)

11/10、11/17、12/01、12/08、01/05、01/12、
01/19、01/26、02/02、02/09

●ミサ

水曜日 17時10分～18時 上智大学内クルトゥルハイム1階右小聖堂。どなたでも。但し祝日、8月全体、10月31日、1月2日は休み。

●黙想

・「会社帰りの黙想」毎月第2・第4火曜日 18時45分～20時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂
どなたでも。但し祝日は休み。8月14日、28日はクルトゥルハイム聖堂。
・「お昼の黙想」毎月第1・第3火曜日 10時40分～12時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂
どなたでも。但し祝日、8月7日は休み。
・水曜日 18時～18時30分 上智大学内クルトゥルハイム1階右小聖堂。どなたでも。但し祝日、8月全体、10月31日、1月2日は休み。

●祈りの集い

・下記の土曜日 13時30分～16時 上智大学内SJハウス第5会議室
講話、黙想、ミサがあります。
11月10日、12月1日、2013年1月5日、2月2日、3月2日
・ロザリオの祈り(同日、ミサに続いて)16時10分～16時50分 上智大学内クルトゥルハイム1階右小聖堂

●黙想会

11月24日(土)10時～25日(日)14時(東村山)、
2013年2月16日(土)10時～17日(日)14時(東村山)。1泊6600円程度。
[関西] 10月27日(土)13時30分～28日(日)15時(宝塚)

●坐禅会

・月曜日 17時20分～20時10分
・木曜日 18時～20時30分
上智大学内クルトゥルハイム1階左の部屋。但し祝日、4月5日は休み。3回坐り、間に講話。

●坐禅接心

秋川神冥窟。1泊2400円(+暖房費)程度。
10月31日(水)20時30分～11月4日(日)10時

●アガペ会

下記の日に説明会(13時30分)と集い、ミサ(14時～18時)。上智大学内SJハウス第5会議室
2013年1月26日(土)

●クリスマス

クリスマス会:12月15日(土)16時～20時30分。岐部ホール4階404(予定)。要申し込み。
クリスマスのミサ:12月23日(日)14時～上智大学内クルトゥルハイム聖堂(80人限定)。



リーゼンフーバー神父キリスト教入門・理解講座

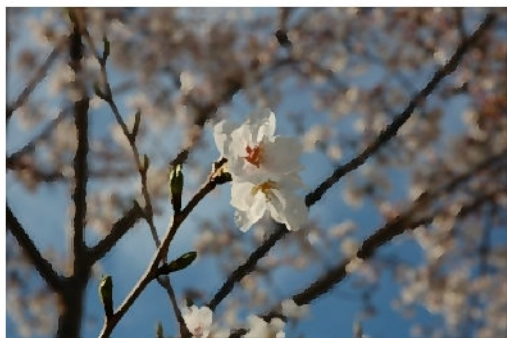
リーゼンフーバー神父キリスト教

入門講座 2012年

日時 毎週金曜日

18時45分～20時30分

- 11/02:○休み
11/09:ミサ祭儀— 神への奉仕と生活の糧
11/16:自己実現と神の意志— 生き方の規範
11/24-25:●黙想会(東村山)
11/30:人間の弱さ— 罪とは何か
12/07:恵みとゆるし— 神の憐れみを受ける
12/14:愛の心— キリスト教の本質
12/15:◆クリスマス・パーティ(16時ミサ、17時30分パーティ、岐部ホール4階404-予定-)
12/21:隣人愛— 他人の内にイエスに出会う
12/23:◆クリスマスのミサ(14時、上智大学内クルトゥルハイム2階、80人限定)
12/28、1/4○休み
01/11:希望を持つ勇氣— 未来に向かって歩む
01/18:霊の動き— 福音による生き方
01/25:秘跡と教会生活— 毎日を養う信仰
02/01:神の言葉— 神との日常的な対話と黙想の仕方
02/08:結婚と独身— 愛の道
02/15:信徒・司祭・修道者— 誰もが召されている
02/16-17:●黙想会(東村山)
02/22:仕事という人間の課題— 社会と教会に寄与して働く
03/01:人間の苦悩— 悪とは何のためか



※リーゼンフーバー神父様HPアドレス

リーゼンフーバー神父キリスト教

理解講座 2012年

日時 第1・3・5火曜日

18時45分～20時30分

- [イエス]
10/30:死からの命— 復活の認識・経験・理解
11/06:キリストはだれか— キリスト理解の発展
11/20:御子の受肉— 神の子と人の子
11/24-25:●黙想会(東村山)
[聖霊]
12/04:神の内的現存— 人間における聖霊の働き
12/15:◆クリスマス・パーティ(16時ミサ、17時30分パーティ、岐部ホール4階404-予定-)
12/18:三位一体の神— 救いの構造から神内の存在へ
12/23:◆ミサ(14時、クルトゥルハイム2階、80人限定)
[教会]
01/15:信仰者の共同体— 教会の本質
01/29:救いのしるしと実現— 秘跡の意味
02/05:憐れみと愛の祝い— 罪のゆるしとミサ
02/16-17:●黙想会(東村山)
02/19:「聖徒の交わり」— 世界の只中のキリスト
03/05:人間と世界の究極の未来— 終末の約束
03/19:信仰者の原型— 聖書と教会の教えに見られるイエスの母
03/31:◆復活祭ミサ(14時、クルトゥルハイム2階、80人限定)

《場所・お問い合わせ》

聖イグナチオ教会(四ツ谷駅前)

信徒会館3階

アルペホール TEL 03・3263・4584

クラウド・リーゼンフーバー神父

〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1

上智大学SJハウス

電話 03-3238-5124(直通) -5111(伝言)

Fax 03-3238-5056

http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/

いのちの泉へ（ノートルダム・ド・ヴィ）

●「いのちの泉へ」
すべての人のための祈りの集い

カルメルの靈性に学びつつ、キリスト者としての靈性を養うための講話と、沈黙の祈りで構成された集いです。カルメルの靈性を、より深めたい方のグループと、若い方、基礎的な信仰を学びたい方のグループがあります

2012年
11月24日（土）
12月 8日（土）

講話 伊従信子

午後2時～午後5時30分位まで、
講話、祈り、分かち合い。
参加費 200円

申し込み・お問い合わせ
ノートルダム・ド・ヴィ
〒177-0044
練馬区上石神井4-3
2-35

TEL(03)・3594・2247
FAX(03)・3594・2254
E-mail notredamedevic.japan@gmail.com
ホームページ
<http://www.ndv-jp.org/>



カルメル会の靈性を受け継ぐノートルダム・ド・ヴィ(いのちの聖母会)は、現代社会のあらゆる場で社会人として働きながら、神への全き奉獻を通して、祈りと活動の一致を生きることを、その精神・理想としています。

マリアの御心会

主日の福音の 分かち合い

2012年 9月28日(金)10月26日(金)
11月30日(金)12月21日(金)

午前 10:30~12:00

福音を読んで、分かち合い、祈りましょう。

どなたでも、ご参加ください。



主催：マリアの御心会

JR「信濃町」下車徒歩3分

問い合わせと申し込み TEL 03-3351-0297

働く人のための
祈りの集い
みことばの分ち合い

時間 19:00~20:30 (第2水曜日)

2012年9月12日 10月10日

11月14日 12月12日



主催：マリアの御心会
JR「信濃町」下車徒歩3分
お問い合わせ 申し込み

TEL 03-3351-0297

軽食あり、自由献金



「来て、見なさい」

「イエスとの関わり」

—主よ、私の道はどこに

—祈りと分かち合いを

通して探して行きましょう

テーマ：空の鳥をよく見なさい

日時：10月14日(日) 11月11日(日)

12月9日(日) 14:00~16:00

対象：自分の道を探している

35歳までの独身女性

場所：マリアの御心会 (JR 信濃町下車3分)

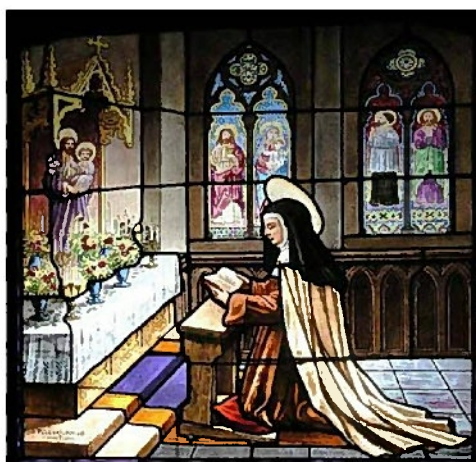
会費：各回500円

担当：マリアの御心会会員

お問い合わせ・申し込み TEL03-3351-0297

ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

- ◎ 所在地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1
Tel: 077-579-7580 Fax: 077-579-3804
E-メール: karainorind92@mbe.nifty.com
- ◎ 交通： JR京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。琵琶湖の方へ徒歩 約13分
- ◎ 日程：
 - A. 8日間の個人指導による黙想
初日は、17時のミサで始まり、最終日は昼食で終わります。
④10月27日(土)～11月4日(日)
⑤12月27日(木)～13年1月4日(金)
 - B. 祈りの体験:週末3日間(金曜日の夕食～日曜日の昼食)
【神との親しさの中で日常を生きるために】
⑦11月23日(金)～11月25日(日)
- ◎ 対象：信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。
- ◎ 霊的同伴者： 司祭、ノートルダム教育修道女会会員、その他
- ◎ 申込み： 1) 名前 2) 住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号)を書いて
郵送、または、Faxで「黙想係」松本佳子 へ申し込んでください。
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。
いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。先着順11名です。
- ◎ その他： 司祭同伴の黙想会やグループ研修会のために修道院をご利用なさりたい
方はご相談ください。(但し、上記の日程と8月1日～8月9日を除きます。)



サダナ瞑想 ～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

☆お申込みは、各集いの連絡先に記されている人に、電話かFaxをお願いします。

【連絡先電話・Fax】

若山美知子	Tel : 03-5802-3844	Fax : 同左
高谷弘子	Tel : 099-255-2862	
大倉本子	Tel : 078-811-2706	
伊藤律子	Tel : 090-4478-0088	
Sr. 名嘉山	Tel : 098-945-8649	Fax : 098-945-8720
Sr. 田中	Tel : 082-239-0034	Fax : 082-239-0036
Sr. 藤岡	Tel : 084-921-6266	Fax : 084-928-7962
鎌田治子	Tel : 0467-31-9835	



【注意】補充情報が随時ホームページ「スケジュール」コーナーに掲載されます。

URL : <http://sadhana.jesuits.or.jp/>

■サダナ I (17:30～16:00)

*体の営みと想像とを生かして祈りを深め、「神との出会い」と「心の解放」をめざす瞑想会。

	場所	指導	連絡先
2012年 11月 1日(木) - 11月 4日(日)	東村山三位一体会	ラフオント	若山美知子
2013年 1月 11日(金) - 1月 14日(月)	東村山三位一体会	植栗	若山美知子

■サダナ II (17:30～16:00)

*サダナ I をいっそう深める。身体・感情・想像・自分史が、神との交わりのもと統合される。

	場所	指導	連絡先
2013年 2月 8日(金) - 2月 12日(火)	援助マリア会 福山修道院	ラフオント	Sr. 藤岡

■自己を知る (9:30～17:00)

*生き生きと喜びのある人生を送るため、またより良い人間関係を育むためのワークショップ

	場所	指導	連絡先
2013年 3月 9・10日 + 3月 16・17日	町田祈り研修の家	植栗	若山美知子

■日帰りサダナ (サダナ・フォローアップ) (9:30～17:00) (指導：植栗)

*サダナ I やサダナ II を体験済みの方のために。“継続的な進歩”をめざす。

	場所	連絡先
2012年 11月 20日(火)	鎌倉聖母訪開会本部	鎌田治子
2013年 2月 3日(日)	市谷援助修道会研修室	若山美知子
2月 未定	鎌倉聖母訪開会本部	鎌田治子

祈り：講話と実践

沈黙の内に神を求めて

—観想の祈りへの道—

日時：11月21日（水）「靈魂の城」第三の住居 第二章

12月19日（水）講話後ミサ

14：00～16：00

場所：イグナチオ教会信徒会館3Fアルペホール

12月のみマリア聖堂（ミサ有り）

アビラの聖テレジアの「靈魂の城」を読んだ後、一緒に沈黙で祈ります

*参加費無料（献金歓迎）

*問い合わせ先：042-473-6287 篠原



九里彰神父（カルメル会日本管区長）

CWC（キリスト者婦人の集い）

カルメルの靈性に学ぶ

『完徳の道』

日時：11月20日（火）第25章、第26章

12月18日（火）第27章、ミサ

10：30～12：00

場所：真生会館

※各黙想会内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

カルメル会出版物のご案内



「神のさすらい人」
アビラの聖テレサ
マルセル・オクレール著
福岡カルメル会訳



「創立史」
イエズスの聖テレジア著



「靈魂の城」
イエズスの聖テレジア著



「カルメル山登攀」
十字架の聖ヨハネ著
奥村一郎 訳

●お問合せは下記まで

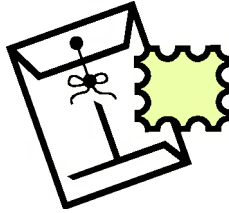
〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25
カルメル会上野毛聖テレジア修道院（黙想の家）

TEL 03-5706-7355 FAX 03-3704-1764

E-mail : mokusou@carmel-monastery.jp

靈性センターニュース

* 年間購読(郵送)のご案内 *



来年(2013年)1月から12月までの『靈性センターニュース』
年間購読(郵送)のお申し込みを受け付けいたします。

年間購読の場合の献金は、2500円程度をお願い致します。
これには11回分の送料(8月休刊)が含まれます。

来年1月以降のお申し込みは、
翌月から12月までのお申し込みとなります。
例：1月申込の場合は、2月号～12月号(8月号休刊除きます)
この場合の献金については、ご希望の月数×250円程度となります。

申込受付期限：12月20日まで

申込先：下記の靈性センターニュース事務局へ、
氏名、郵便番号・住所、電話、Fax等をご記入の上、
郵送か下記のe-mailでお申し込みください。

《郵送でのお申し込み》

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25
カルメル会上野毛修道院 「靈性センター事務局」

《e-mailでのお申込み》

tokyo@carmel-monastery.jp

*何かご質問等があれば、下記にご連絡ください。

Tel: 03-3704-2171

Fax: 03-3704-1764

『霊性センターニュース』 お持ち帰りの方へ

一冊 100 円程度の献金をお願い致します！

「霊性センターへの献金」のお願い

「霊性センターニュース」は、現在、上野毛霊性センターで編集、印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担しております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

献金される方は、下記の口座へお振り込みください。

郵便番号口座： 00110-4-297250

加入者名： カルメル霊性センターニュース

なお通信欄へは「献金」とご記入ください。



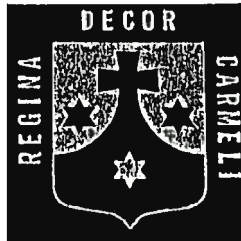
編集後記

昨年は、「想定外」という言葉が流行った。先月、女子カルメル会の院長選挙が二か所であったが、そのうちの一つの女子カルメル会に行った時、この「想定外」が起こった。司祭の部屋の水が出なくなったのだ。水道工事か何かと思ったのだが、そうではなく、そこでは水道の他に、井戸の水を使用しているそうで、井戸から水をくみ上げるポンプがこわれてしまったとのこと。

とにかく、洗面所の水もトイレの水もシャワーの水も使えず、シスターが水道の水をさまざまな容器に入れ、運んできてくれた。正確に言うと、ポリバケツ2、大きなヤカン2、水差し1、さらに、お湯が使えるようにと電気ポットが1。一時は、修道院中の容器が司祭室に集まってくるかのような感じであった。バケツやヤカンの水がなくなると、受付の姉妹が台車に載せておかわりを運んできてくれた。洗面、髭剃り、歯磨き、トイレ等、日頃何気なしに使っている水の貴重さに気づかされた。

「はっきり言うておく。私の弟子だという理由で、この小さな者の一人に、冷たい水一杯でも飲ませてくれる人は、必ずその報いを受ける」(マタ 10・42)。

(P. 九里)



.....製本／発送のご協力お願い.....

「霊性センターニュース」の製本／発送は、原則として毎月第四火曜日に行われます。作業はホッチキス綴じと購入者様への発送のみです。皆様のご協力をお待ちしております。初めての方、不定期参加の方も、大歓迎です。お茶とお菓子の時間もありますよ♪

「12月号」製本日 11月27日(火)

上野毛教会信徒会館ホール 1階
午後1時半頃から～

※参加ご希望の方は、念のため、製本日をご確認下さい。霊性センター係

TEL 03・3704・2171